

# しもやしき 下屋敷遺跡

遺跡番号 平成17年度登録  
調査回数 1次  
所在地 米沢市万世町桑山字下屋敷  
北緯・東経 北緯37度53分45秒 東経140度9分10秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所  
調査原因 東北中央自動車道（福島～米沢）新設事業  
調査面積 3,000㎡  
現地調査 平成19年9月25日～平成19年11月30日  
調査担当者 菅原哲文（調査主任）・武田伸一・山木巧  
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・置賜教育事務所・米沢市教育委員会  
・万世コミュニティーセンター

遺跡種別 集落跡  
時代 縄文時代・平安時代・中世・近世  
遺構 河川跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット  
遺物 縄文土器・石器・須恵器・土師器・中世陶磁器・近世陶磁器・木製品・古銭  
（文化財認定箱数：12箱）



## 調査の概要

下屋敷遺跡は、米沢市万世町字下屋敷に所在し、平成17年度に県教育委員会により縄文時代・中世の遺跡として登録され、東北中央自動車道（福島～米沢）新設事業にともなって、発掘調査を実施することになった。調査面積は3,000㎡で、工事との調整により発掘調査区を1～3区に分け、順次調査を進めた。同遺跡は、国道13号線沿いに位置し、天王川（梓川）の扇状地に立地している。また、南側に早坂山（標高502.6m）がひかえ、周辺は主に田地・畑地として利用されている。

## 遺構

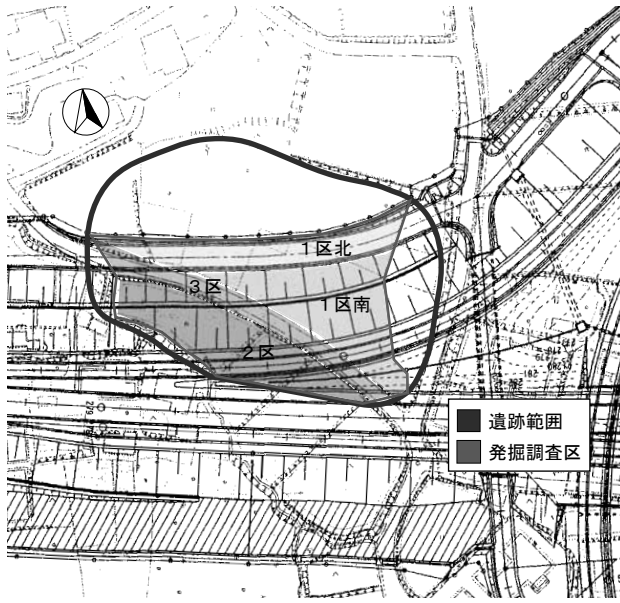
下屋敷遺跡では、主に中世の遺構が確認された。1区では、中世の井戸跡が3基、溝跡、建物跡の柱穴、土坑が確認された。井戸跡（SE3・SE6・SE7）は、平面形が方形で、一辺が1.0～1.5mの大きさを測る。どの井戸跡も、壁面に板材を縦に並べて横木で押さえ、四隅に杭を打って留めていた。SE6は、使われなくなってから、大きな石を入れて埋め戻しをしていた。

2・3区では、SG11・12河川跡が検出された。幅は約6mと規模は大きくない。SG11河川跡の堆積層からは、平安時代と中世の遺物が出土している。この河川は、平安時代以前から流れており、中世になると河川の堆積が進んで流れは浅くなっていたと考えられる。

## 遺物

1区では、SE6から鎌倉時代の中国産青磁碗と曲物の柄杓が、SE7からは室町時代の中国産青磁碗、漆器、在地で製作されたと考えられる中世の瓷器系陶器の甕が出土した。また、縄文中期末の土器も出土している。

2区では、SG11から縄文時代のたたきいすりいし 敲石・磨石が出土している。同河川跡から平安時代の遺物として、比較的資料の少ない10世紀後半から11世紀代と考えられる土師器を中心に、



調査概要図 (S=1:4,000)

9～10世紀代の須恵器高台付坏・須恵器甕・内黒土師器、平安時代末と考えられる柱状高台を持つ土師器が出土している。中世の遺物では陶器の甕が出土している。その他、みいご 鞆の羽口なども出土した。木製品では、曲物の底板

が認められた。自然遺物では、クルミやトチの実が多く出土している。

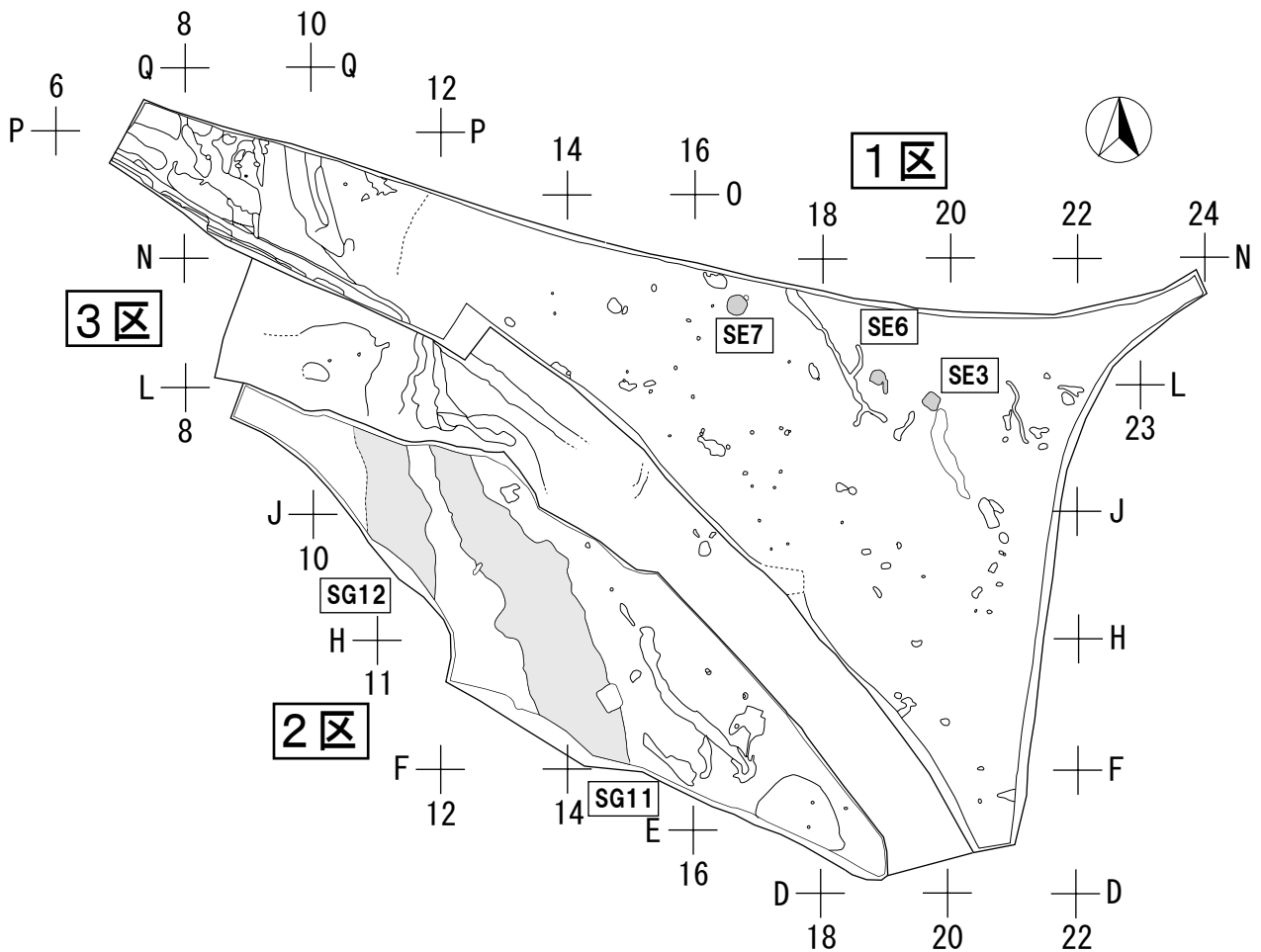
### まとめ

下屋敷遺跡は、中世を中心とする集落跡である。遺物の時期から、鎌倉時代から室町時代にかけてと考えられる。

井戸跡、溝跡を中心とした遺構が確認され、3基の井戸跡は枠材が残り、当時の使用されていた状態が良好に残されていた。建物跡は、調査区で検出されなかったが、北側に建てられていた可能性がある。

陶磁器や木製品を中心とした遺物が出土したが、出土量は少なく、短期間に営まれた規模の小さな集落であることが推測される。

このほか、遺構は検出されなかったが、9～11世紀の須恵器・土師器が河川跡から出土しており、調査区の南側で平安時代の集落が営まれていた可能性がある。また、同様に遺構は検出されなかったが、縄文時代の遺物も出土している。



遺構配置図 (S=1:600)



調査区近景



1区 SE3・6・7 完掘状況



1区 SE7 完掘状況



1区 SE7 青磁碗・中世陶器出土状況



1区 SE7 瓷器系陶器甕出土状況



1区 SE6 完掘状況



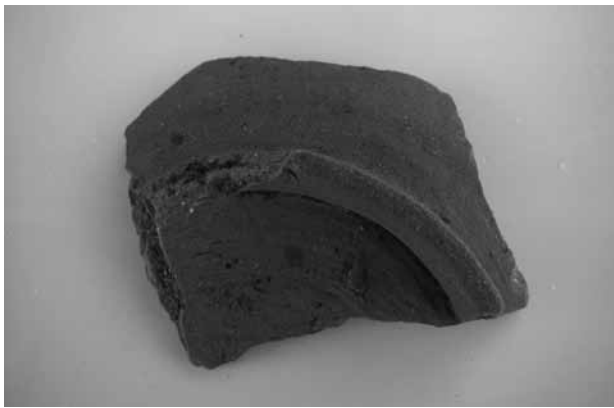
1区 SE6 曲物柄杓



2区 SG11 掘り下げ状況



2区 SG11 土師器甕



2区 SG11 須恵器高台付坏



2区 SG11 土層断面



2区 SG11 鞆の羽口



2区 SG11 須恵器甕